

令和 7 年 第 9 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 7 年 9 月 19 日（金） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監、
- 5 開 会 午後 2 時 00 分
- 6 令和 7 年第 8 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 10 号 教育委員会教育長の任命について

報告第 11 号 令和 7 年第 4 回大河原町議会定例会（9 月会議）の結果について
教育総務課長、生涯学習課長より説明。

一 盃 森 委 員	水泳授業の時数について、大体 8 時間から 10 時間ということだが、実際実施している時数は確保できているのか？今は泳ごうと思っても気象などの条件でなかなか泳ぐことが難しいと感じているが、わかる範囲で結構なので教えていただきたい。
小野寺専門監	一般質問回答書 12 ページをご覧くださいと思いますが、令和 5 年度につきましては小学校の平均日数が 3 校平均で 9 時間、中学校が 2 校平均で 6.3 時間、6 年度が小学校 7.6 時間、中学校 6 時間ということで若干下回っているところもあるが、ほぼその 8 時間から 10 時間の目安の時間に近い値数は実施できている状況でございます。
丹 羽 委 員	一般質問回答書 19 ページで、なかなか理解するのが難しいが、65 度というのは気温と水温と両方出した意味でよろしいのか。
小野寺専門監	はい、その通りです。

丹羽 委員	暑さ指数 31 度というのは、外の気温のことか？
小野寺専門監	気温と湿度の計算式があり、その数値によって判定するものです。
丹羽 委員	今年の夏は常に 35 度以上あったように思う。夏休みはほとんどプール開放で きなかったのではないか？
鈴木 教育長	夏休み期間中はプール開放日を 5 日間設けたが、やはり気温が高く開放でき なかった。ただ金ヶ瀬小学校だけは 3 日間開放できたもの。

(2) 専決事務報告

報告第 5 号 専決処分の報告について

(令和 7 年度大河原町一般会計補正予算 (第 3 号))

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

8 議 事 なし

9 その他

(1) 教育長報告

1 学校の居場所

(1) 笑顔になれる学校の居場所 (久保田智子)

初めに、学校の居場所ということで、元アナウンサーの久保田文子氏の話を紹介。久保田氏は元 TBS テレビのアナウンサーで、現在は兵庫県姫路市の教育長をされており、「子どもまんなか」の魅力ある学校づくりに取り組まれている。その久保田教育長のお子さんが小学校 1 年生なのだが、学校に行けなくなってしまった。教育長の娘なのにとどん底に突き落とされた気持ちになったが、振り返ってみると、この 1 年間、仕事が忙しく子供といる時間が少なかったことに気付いた。子供とちゃんと向き合えなかったと反省し、子供という時間を出来るだけ確保し、一緒に話したりする時間を充実させたことで、子供の不安も少しずつやわらいでいったという内容が載っているもの。

この中で、学校の教頭先生にすすめられたのが、次に紹介する「おこだてませんように」という絵本である。

(2) 『おこだてませんように』(くすのき しげのり)

この絵本は私も読んだが非常に良い話で涙が出てきた。8 ページ以降に内容を書いているので見ていただきたい。僕はいつでも怒られていて。自分では悪いことはしてないと思ってもいつも怒られている。妹の面倒見ても、母親に怒られ、カマキリを皆に見せようと思ったんだけど怖がられて嫌がられている。それから給食をいっぱい食べてもらおうと思って盛っても、盛りすぎだと先生に怒られる等。

自分は怒られてばかりだが、本当はいい子だねと言われたい。だが、なかなかそれが相手に伝わっていない。そういう中で、七夕の短冊に願いを書く日が訪れて、僕は一生懸命

考えて本当に心を込めて書いたというのが「おこだてませんように」という願いであった。それを見た先生が、やっこの子の思いを感じ取ってくれた。それで先生が怒ってばかりでごめんね、良い願い事だねと気付いてくれた。

その夜先生から母親に電話があり、母親にいっぱい抱っこしてもらったという内容の話である。

この絵本は不登校傾向の子を持つ保護者の方たちにぜひ読んでいただきたい。

2 「若い教師が成長するとき」〔学びのたより〕（石井順治）

大きな2点目は、石井順治先生の「学びのたより」の若い教師が成長するときということで、ここでやはり若い先生が一生懸命授業作りに励んで、良い授業をしたい、わかる授業をしたいということで、石井先生に話を聞きに来たという内容。

年2回、石井先生に授業を見ていただき、その成長ぶりに、やはり石井先生も驚いて、若い先生の可能性というものを感じさせる話であると感じた。

3 『中学校の学習評価ハンドブック』（田中博之）

大きな3点目の「中学校の学習評価ハンドブック」は、10月6日（月）に大河原中学校に来られる、早稲田大学の田中博之先生が書かれた本で、大河原中学校でルーブリック評価（絶対評価のための判断基準法）を中心に評価研究をしている。

その中で、ルーブリックを作るにはどうしたら良いかということが大事なことで、これがうまくいくと客観的評価に繋がり、保護者にも説明ができ、子供も納得できる、そういう評価、評定になっていくと書かれている。この評価方法は非常に先生方にとって大きなプラスになるのではないかと感じている。大河原町でも年間評価計画というものを作っているが、その中に、ルーブリック評価を取り入れている。累積したものが中学校でもあると思うので、今度田中先生がいらした際に、その評価について伺いする予定である。

4 「現場の先生方にとって、実現可能性の高いものに」（田村学）

それから大きな4点目は、文部科学省の主任視学官である田村学先生のインタビュー記事。「主体的・対話的深でい学び」というのは、次期学習指導要領でも変わらないということを書いており、非常に良かったと感じている。

大河原町でも対話的学びを取り入れてはいるが、まだ十分ではないと感じており、次の10年間で引き続きこれを行っていくことが大事である。

5 「探求」（『世界の教育はどこへ向かうか』 白井俊）

それから5点目が、これも繋がってるもので、白井俊先生の著書の中の、「探求」の紹介である。

この白井先生のおっしゃっていることが、次期学習指導要領の改正に繋がっていくも

のと感じている。つまりこの探究のところで、課題の設定や情報の収集、整理分析、まとめ表現という、問題解決の過程を踏ませることが大事と述べているもの。

現在大河原町で作ろうとしている「おおがわら学」のテキストについても、このような問題解決の過程を踏むようなもの、そしてもう一つは、タブレット、ICTを使った情報活用能力、それが発揮できる、育まれるようなテキストにしていきたいと考えているもの。

6 子どもの学力差に応じるビルドアップ型の授業感（大野桂）

（１）「誤答の修正」を授業の中心に据える

（２）「分からなさ・困っていること」を課題とする

大きな 6 点目は筑波大附属小学校の大野桂先生の論文の中から二つを掲載したもの。

一つは誤答の修正を授業の中心に据えるということ。やはり誤りをどう解決していくか、わからない子の間違いをどう発展していくかということについて、大野先生が書いてあるように、ノートを覗いたらいくつかの答えがあった。例えば、何故そのような答えを出した子は、どうしてそのような答えに至ったのか。学級全体がその気持ちはわかるというようなことで、子供たちはその誤答をみんなのものにしていくことができれば、正答へ至るための修正点が明確になり、納得のいく確かな理解へと繋がっていく。

次に、分からなさ、困っていることを課題とするということで、授業で何でこういう事を書いたのか、このような考え方をしたのか、ということで、皆のものにしていく。そのような、わからない子を大事にしていく授業がやはり大事であると思う。

中学校の授業を見ていると、わかる子だけの意見を取り上げて先生が説明し、わからない子はわからないままだから、学力の定着が図られないと感じる。こういうわからない子に寄り添ってやるとわからないこが部分をみんなで考えていく。わからない子もそういう中で意見を聞くと、ここが足りなかった部分だと気づいていく。するとわからない子もわかっていく、わかっている子はよりわかると、というような全体のレベルアップに繋がっていく。これが対話的学びの核心だと私は思う。ここができているかいらないかで、学校の研究の質、授業の質が変わってくるので、引き続き取り組んでいきたい。

7 教職員の事故防止（風通しのよい職場づくり） 他人事ではなく他山の石として

8 生徒指導

9 人事異動等について

（１）令和 8 年度末異動調書（予定）

（２）加配定数について

（３）定年引上げに係る教員の確保について

（４）宮城教育大学附属校園の推薦

（５）長期研修について

（６）優秀教員等表彰について

(7) 令和7年度人事ブロック会議日程(案)

10 その他

(1) NHKてれまさ「昆虫の町」大河原！その理由とは？」

写真記録の紹介。NHKてれまさむねの番組で「昆虫の町」大河原！その理由とは？」ということで、宮崎慶太アナウンサーが大河原町に来て直接取材をしてくれたもの。宮崎アナウンサーは小学生の時、大河原町の昆虫教室に通っていたほどの昆虫好きである。昆虫の標本や昆虫公園、大高山遊歩道などに行って取材をし、大河原昆虫同好会の皆さんや生涯学習課職員が解説をしてくれた。本当に昆虫の町になったという感じがして素晴らしいと思う。

(2) 世界・日本の大昆虫展

夏休み期間中に開催した「世界・日本の大昆虫展」について、今年は7日間で1,700名を超える来場者数となった。これも大河原昆虫同好会の先生方が、生きた昆虫や標本の提供などいろいろと尽力してくれたほか、学校関係者の方達にも協力いただいた成果だと思う。来年は来場者2,000人を目指したい。

(3) 子ども夏まつり(金ヶ瀬公民館)

金ヶ瀬公民館の子ども夏まつりにも、今年は320人を超える親子に参加いただいた。金ヶ瀬中学校の生徒もボランティアで協力してくれ、子供たちの手伝いをしてくれた。これも良い社会貢献活動だと思う。

(4) 全国病弱虚弱教育表彰 柳沼裕先生

(5) 金ヶ瀬小学校 指導力向上研修会(田端先生)

(6) 金ヶ瀬小学校夏休み最終日の教室

(7) 大河原南小 指導力向上研修会(田端先生)

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和7年度行事予定について説明。

丹 羽 委 員	大昆虫展について。本当に素晴らしい。大河原町にこのような昆虫の標本がたくさんあるということは宝物であると思う。これをどのように保存するか保管するのかなというのが今後問題になってくる。保存・展示施設をどこかに建てるなど教育委員会でしっかり考えるべき。町の宝物なのだから是非活かしてもらいたい。
一 盃 森 委 員	43ページから学習指導要領の改訂の予定について、田村先生の話が載っており、それで加えて総合的な学習の時間から探求というふうな話が載っている。主体的で対話的で深い学びが今後も続くという話で、私も正にこれからだと実際は思っている。それと新聞記事にも出ていたが、今度の改定で、弾力的

林 委 員

に時数を組めることになった。一定数余剰の時間が多い学校についても、それを認めるという話で、私は非常にいいことだと思った。その学校毎に子供たちの実態に合わせて打ち出したいところを重点化して取り組んでいくということで非常によかったと思って見ていた。

また、探求のことについて少し心配だと思っていたのは、これまでの総合的な時間ということについて考えると、学校で何時間配当されてるかわからないが、ほぼ各種教育というか、総合的な学習の中で防災教育もやりましょう、何とか教育を何時間、何とか教育は何時かっもう決められてしまっている感じで、本来は横断的な時間ということで取り入れたはずが、なかなか融通が利かないような形になっており、それを今更探究と言われてもと心配していた。しかし先ほど教育長より「おおがわら学」という、一つ核になるものを据えて、それを大もととして計画を立て、探究の活動を組んでいくという、探求の活動を進めるに当たっては白井先生の、この「論考」の中のことを参考にして展開をすると狙っている力を子供たちに身につけさせることができるのではないかと読んでいて感じたもの。

二つお話ししたい。まずは石井順治先生の学びの便りをいつも楽しみに読ませていただいている。やはり若い教師の育成には、学校の同僚性が不可欠だと、最後の方でやはりそこだよなと思いながら読んでいた。

そのことを踏まえて、写真資料にある金ヶ瀬小学校での田端健人教授をお招きしての指導力向上研修会の記録を読んでいた。そのなかの金ヶ瀬小学校の課題克服プランのところに、ああでもない、こうでもないができる雰囲気を作っていきたいと書いてあった。これが金ヶ瀬小学校の先生方の行き着いた目標である。

その何でも言える雰囲気を作って、対話的な学びをより一層推進していこうというような、その目標設定がされているのだと思った。

通常、こういう教員研修の場での話し合いは、これができなかったからこれが悪かった。これができないからやれないかもしれないというような感じに、追及にどうしてもとどまってしまうことが多く、なかなか目標設定まで突破しないことが結構ある。しかし金ヶ瀬小学校のこの指導力向上研修会の中には、皆でその対話的な学びの大切さを再確認し共有して、この先さらにどうしようかという目標設定にまで行き着いているというところにやはり高い同僚性を感じたものである。

それからもう一点は一盃森委員もおっしゃっていた田村学主任視学官の次の学習指導要領の改訂のことと、それからやはり白井先生の「世界の教育はどこへ向かうのか」という本を読んで、やはり両方繋がっている、イコールで繋がっていることに気づいて、その探求について私自身もいろいろ考えた。

片 倉 委 員

この総合的な学習の時間は、平成 10 年改定、12 年施行なので、もう 25 年や
ってきていると思う。25 年やってきている中で、途中実数が 3 分の 2 に減ら
されたりとか、それから学校ごとに取り組みが異なり、レベルが全然違うと
か、地域差が激しい等、いろいろとバッシングを受けたりしてきてる経緯も
あった。ただ、やはり評価の枠にとらわれない子供自身が抱く課題みたいな
ものから出発するというのが、すごく子供たちの生きる力に直結している
と思いつけているものである。

鈴木教育長
片 倉 委 員

探求とはどのような授業なのか、先生方の話を聞いていても総合的な学習と
言われてもどのようなものかわからなかった。町内の小・中学校では探求と
いう授業があるのかお聞きしたい。

総合的な学習の時間ということで小中学校で実施している。

小中学校で、もしあるならチームでやるのかと考えていた。一つのテーマを
それぞれチームの皆で決めて、夏休み明けぐらいから、1 年かけて月 1 回と
かに集まって話し合うというのは、すごく楽しそうだと思う。また、題材の
設定から情報収集、整理や分析、まとめたりすることで、学校生活の経験の
中で自分が知らないことを知る機会になるのではないかな。

1 0 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和 7 年 10 月 17 日（金）午後 2 時から開催する。

1 1 閉会宣言 午後 3 時 00 分

令和 7 年 10 月 17 日

署名委員

署名委員